

日本と韓国の古典文学並びに言語の研究を通じて、日韓関係を学問的・体系的に位置づけた金思燁博士。著書40冊、論文400を超えるその業績を、全32巻にまとめた金字塔的全集ついに成る！
初期の『俗談大辞典』他、『朝鮮文学史』、『古代朝鮮語と日本語』、『朝鮮の風土と文化』等、全ての業績を網羅！

日本文学・韓国文学、言語学、民俗学、歴史研究者等に必備の画期的全集！

日韓文化交流の架橋！



金思燁全集

(全三十二巻)

金思燁全集 各巻内容

- | | |
|---|---|
| 1. 朝鮮文学史/朝鮮民謡集成 | 17. 国語学論説/民謡・俗談論説/解題/創作詩/古小説論説/社説/民俗論説/文化論説/教育論説/写真 |
| 2. 改稿国文学史 | 18. 朝鮮文学史 |
| 3. 李朝時代の歌謡研究 | 19. 古代朝鮮語と日本語 |
| 4. 俗談論/松江歌辞 校註・解題 | 20. 朝鮮の風土と文化 |
| 5. 郷歌の文学的研究 | 21. 記紀万葉の朝鮮語/トンカラ・リンと狗奴国の謎 |
| 6. 俗談大辞典/現代詩論 | 22. 韓国・歴史と詩の旅/朝鮮のころ |
| 7. 鄭松江研究 | 23. 完訳三国史記(上) |
| 8. 韓訳万葉集(一) | 24. 完訳三国史記(下) |
| 9. 韓訳万葉集(二) | 25. 完訳三国遺事 |
| 10. 韓訳万葉集(三) | 26. 韓国古代史(上) |
| 11. 韓訳万葉集(四) | 27. 韓国古代史(下) |
| 12. 韓訳万葉集(五)[未完・遺稿] | 28. 韓国の人間国宝 |
| 13. 春香伝 校註・解題 | 29. 韓国語学論説/日訳韓国の名詩/その他/シンポジウム及び講演 |
| 14. 国文学論文 | 30. 韓国文学に関する研究論文/韓国の民俗/随筆/著作講演目録 |
| 15. 古代韓国語と日本語/日本の中の韓国文化残影/韓日文化の相関/講演・対談・資料他 | 31. 別巻1 清溪金思燁博士頌寿記念論叢 |
| 16. 国文学論説/現代文学論説/随筆・随想/日本の中の韓文化 | 32. 別巻2 清溪金思燁博士追慕文集 |

平成16年10月下旬刊行予定

体裁 — 菊判・上製・全32巻・各巻平均約530頁（総16892頁）

ISBN4-336-04685-1

揃定価：127,680円（税込価・分売不可）



発売元：(株)国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL03-5970-7421 FAX03-5970-7427

<http://www.kokusho.co.jp/> E-mail: info@kokusho.co.jp

画期的全集全32巻！

金思燁全集刊行委員会編
国書刊行会

日韓文化交流の架橋！金思燁博士の全論文、全著作を網羅した未踏の全集！

キム サヨブ

●『金思燁全集』朝鮮文学・日本古代史に残る朝鮮文化の探求を通じて民族の魂を追求した碩学の全貌！

『金思燁全集』には、金思燁博士の最初の著作である『俗談大辞典』（朝鮮日報出版局一九四〇）をはじめとして、『朝鮮文学史』などの著書50冊と四〇〇を越える研究論文が収められる。朝鮮語・日本語によるすべての著作がこのような形でまとめるのは初めてのことである。

金思燁博士（一九二〇～一九九二）は慶尚北道に生まれ、京城帝国大学で朝鮮語学・朝鮮文学を小倉進平や高橋亨に、また日本の古典文学を高木市之助に学んだ。解放後は韓国・大邱の慶北大学教授をつとめたあと日本に來られ、天理大学を経て、一九六三年から八二年まで、国立大学として戦後初めて朝鮮語学科が設置された大阪外国語大学の客員教授として朝鮮語学・朝鮮文学を講じた。

金思燁先生の生涯を通じて最も大きな業績は朝鮮古典文学に対する研究である。とりわけ一九四八年に出版した『朝鮮文学史』（正音社）は文学史研究において重要な意義をもっている。日本から独立して間もない時期に出版されたこの本は、その内容や記述方法からみて、事実上、解放後初の朝鮮文学史である。その後も『鄭松江く生涯と芸術』（啓蒙社一九五〇）のほか、『春香伝』（大洋出版社一九五二）、『改稿国文学史』（正音社一九五四）、『松江歌辞校註解題』（文豪社一九五九）、等を著した。『春香伝』は古典文学の代表作として、また鄭松江はすぐれた時調や歌辞を詠んだ、16世紀の政治家・歌人として知られている。全集には博士論文となつた『李朝時代の歌謡研究』（学園社一九五六）や、新羅時代の歌謡について研究した『郷歌の文学的研究』（啓明大学出版部一九七九）も収められている。これらは韓国における古典文学研究をリードした著作でもある。

こうした研究活動と並んで忘れてならない業績は、朝鮮文学を学ぶ場が皆無に近かつた当時、日本の学生に古代から高麗、朝鮮王朝へと至る朝鮮古典文学を講じたことであろう。いわば日本に朝鮮文学研究の種を蒔いたのである。また日本語で『朝鮮文学史』（北望社一九七二）や『朝鮮のこころ』（講談社新書一九七二）を著し、日本の一般読者に朝鮮古典文学の世界を紹介している。

ところで、金思燁博士は一九七〇年代の半ば頃から日本の『古事記』や『万葉集』など、日本古代文化に残る朝鮮の基層文化の探求にその比重を移したようにみえる。そのなかから生まれたのが『古代朝鮮語と日本語』（講談社一九七四）『紀記万葉の日本語』（六興出版一九七九）などである。万葉集の翻訳にも取り組み『韓訳万葉集1〜4』（5は未完 成甲書房一九八四〜一九九二）を出版したほか、万葉の世界を朝鮮古代歌謡と関連させて解説した『日本の万葉集』（民音社一九八三）も韓国で著している。

全集には、古典文学関係だけでなく、日本語で一般向けに書かれた『朝鮮の風土と文化』（六興出版一九七四）や、近代詩を紹介した『韓国・詩とエッセーの旅』（六興出版一九七八）も含まれている。日本の大学では古典文学とともに近代文学講読も担当され、近代詩として金素月「招魂」、鄭芝溶「郷愁」などを、小説としては兪鎮午「金講師とT教授」、金東里「巫女図」、崔曙海「脱出記」、金裕貞「椿の花」などをテキストに用いた。韓国で『現代詩論』（韓国出版社一九五四）を出版したこともある。

金思燁博士の生涯を振り返ると、その前半は古典文学の研究を通じた民族文化の再興を企図し、また後半は日本の古代文化に残る民族文化の発見を課題とされた。言いかえれば先生は生涯にわたって民族の魂を追求されたのである。

韓国に帰国された後は、ソウルの東国大学日本学研究所長をつとめ、一九八五年には外国人の日本研究者に贈られる大阪府の山片蟠桃賞を受けている。

この全集は日本人々が隣国の人々の「こころ」を理解する大いなる手がかりを与えてくれる点でも貴重である。

●『金思燁全集』（全32巻）まとまる——韓国で最大規模——

韓国で出版された個人の著作集としては最大規模となる全32巻の全集が最近まとまった。

新羅時代の歌謡である郷歌や日本の古代歌謡集である「万葉集」など、韓国と日本の古代文学や言語を研究した故金思燁（一九二〇～一九九二）博士が生前に発表した論文などを集大成した金思燁全集がそれである。

故人に教えを受けた学者からなる金思燁全集刊行委員会は、博士の残した著作物などのなかから、所在が確認でき現物が残っている著書50冊と論文四〇〇編のほか講演やシンポジウムでの発表や対談内容などを32巻の全集にまとめた。沈載完全集刊行委員長は「その人となりにふさわしい内容であり希代の全集となつた」と評価している。

全集を出版したソウルの図書出版博而精の朴賛益社長は「これまで韓国で出版された個人の著作集で最大のものは李家源先生の全集（全30巻）であつた。したがつて今回の『金思燁全集』は韓国で最大の著作物とみるべきと語っている。

弟子にあたる大邱教育大学名誉教授金倉圭氏は「先生は言語的な面から多数の韓国語が日本語化していることを立証したと述べたうえで、先生のこうした学問的な努力が、どの駐日大使もなしえなかつた金字塔をうち立てた」と語っている。

（『京畿毎日』2004年4月2日付）

●国学研究の生涯 32巻の全集にまとまる
金思燁博士の遺作・論文などを集大成した全集編纂

国学者・清溪・金思燁博士の全集がソウルの博而精から出版された。

『金思燁全集』は金思燁全集刊行委員会（委員長は慕山・沈載完嶺南大学名誉教授が、遺作となつた五〇冊の著書と四〇〇編あまりの論文のほか、講演、シンポジウムなどの発言を年代順に、そして分野別・領域別に整理し全32巻にまとめた。（ハングル一七冊、日本語一三冊、別集二冊）二万七千ページにも及ぶ膨大な量である。

金思燁博士は一九二二年慶尚北道漆谷仁同に生まれ小学校の頃からハングルや日本語で雑誌に投稿し入選、中学校に進学した後には朝鮮日報の雑誌『学生』に詩文、論説を発表するなどずばぬけた才能を示した。その後京城帝国大学朝鮮語文学科に進学し、詩歌、小説、民謡、ことわざなどを採集、発掘につとめた。独立後は国語教科書を編纂。大邱師範大学や青丘大学国文科主任教授をつとめ、ソウル大学予科教授、慶北大初代大学院長も歴任した。

一九六〇年に日本に渡つた金思燁博士は二〇年あまり日本に滞在し、韓国古代史や文学史の著述のほかに、『三国遺事』、『三国史記』の日本語への翻訳、『万葉集』のハングル翻訳など韓日両国文化の比較と紹介に大きな足跡を残した。帰国後は啓明大学アジア研究所長などを歴任し一九九二年に亡くなった。

今回の『金思燁全集』は博士の教えを受けた沈載完嶺南大学名誉教授、金倉圭大邱教育大学名誉教授らが二〇〇二年八月から国内外において資料を収集し日の目をみたものである。

（『嶺南日報』2004年3月23日付）

清溪金思燁博士略歴

1912年	慶尚北道漆谷郡仁同面出生
1927年	金泉公立普通学校卒業
1932年	大邱公立高等普通学校卒業
1938年	京城帝国大学法文学部朝鮮語文学科卒業
1938年	光州師範学校教師
1940年	京城帝国大学大学院に入学 李朝時代の歌謡研究
1941年	大邱大倫中学校教師
1943年	慶北中学校教師
1946年	慶尚北道学務課視学官
1947年	ソウル大学校予科教授
1948年	大邱師範大学教授
1953年	慶北大学校教授
1955年	ハーバード大学で蒙古語と韓国語比較研究
1956年	ソウル大学校大学院文学博士学位取得 慶北大学校大学院院長
1960年	東国大学校教授 天理大学講師
1961年	京都大学文学部講師
1963年	大阪外国語大学客員教授
1977年	京都大学文学部講師退任
1982年	ハーバード大学燕京学館韓国支部長
1983年	利鎬日本学研究所財団常任理事 東国大学校教授日本学研究所所長
1984年	日本国勲四等旭日小綬章受賞
1985年	山片蟠桃賞受賞（大阪府）
1991年	東国大学校教授兼日本学研究所所長退任
1992年	逝去（80歳）

金思燁全集刊行委員会

委員長	沈載完（嶺南大学名誉教授）
委員	千時権（前慶北大学総長）
委員	兪昌均（前啓明大学教授）
委員	成炳禧（安東大学名誉教授）
委員	李東熙（前嶺南大学教授）
委員	洪在炅（大邱カトリック大学名誉教授）
委員	金倉圭（大邱教大学名誉教授）
委員	金武完（遺族）